

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

日高管内 平取町立平取小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・児童のふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間及び社会科の学習において、地元に住むアイヌ文化を伝承されている方々を外部講師に招聘し、学年に応じたテーマに沿った体験活動を通して、アイヌの人たちの歴史・文化等について、探究的な学習を展開しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を基に、これまでの学習成果を踏まえ、発達の段階に応じて第3学年でアイヌの人たちの踊り・楽器、第4学年でアイヌの人たちの衣服、第5学年でアイヌの人たちの食文化、第6学年でアイヌ文様について、探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

課題を解決するため、平取町教育委員会のアイヌ文化学習係やアイヌ民族文化財団「アドバイザー派遣事業」を活用して講師を招聘し、講義を受けたり、体験活動を行ったりすることを通して、アイヌの人たちの歴史や文化について学びました。

また、第3、4学年では、副読本を利用したり、平取町立二風谷アイヌ文化博物館を複数回訪問したりすることを通して、アイヌの人たちの文化と自分たちのかかわりについて、情報を収集しました。

(3) 整理・分析

地域に住んでいるアイヌの人たちの歴史や文化等について、収集した情報を基に、アイヌの人たちの文化と自分たちのかかわりについて考えを深めるとともに、アイヌの人たちが、今も文化や伝統を守り、大切にしていることについて学びました。

(4) まとめ・表現

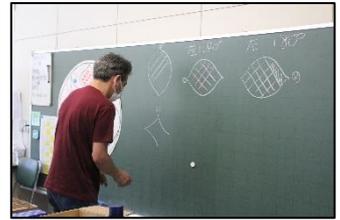
各学年で調べた内容を壁新聞やポスターにまとめ、廊下に掲示するとともに、学んだことを発表し合い、アイヌの人たちの歴史や文化等について理解を深めました。

②児童（生徒）の感想等

- ・アイヌの人たちの文化について知ることができて、興味が湧きました。
- ・きれいなアイヌ文様の意味が分かってよかったです。
- ・アイヌ料理作りを通して、アイヌの人たちの植物や動物を大切にする気持ちが伝わってきました。



【「アドバイザー派遣事業」の様子】



【アイヌ文様の学習・木彫り体験の様子】



【いなきびの団子「シト」作りの様子】

■取組の成果（○）と課題（●）

- 各学年における課題設定を工夫したり、地元に住むアイヌ文化を伝承されている方々を外部講師とした学習を行ったりしたことにより、「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心が高まった」と回答した児童の割合が89%から91%に、「北海道や自分たちの住んでいる地域は好き」と回答した児童の割合が96%から98%に、「今、住んでいる地域行事に参加しようと思う」と回答した児童の割合が61%から79%にそれぞれ増加したことから、児童のふるさとに対する誇りや愛情を育むことができました。
- アイヌの人たちの歴史や文化等について学習した成果を地域へ発信することが十分にできなかったことから、ICTを活用し、地域へ広く発信するなどして、取組の工夫を図る必要があります。